

3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校
-----	---------------

1 前年度 評価結果の概要	・令和2年度はコロナ禍の中、学校行事等も思うようにはできなかったが、なるべく例年どおりの教育活動となるように綿密な計画等を立てて行うことで、教職員の一致団結した取り組みができた。 ・これまで2年間で校舎制をとる高校としてのシステム等は概ね整えることができたが、来年度、伊万里実業高校の完成年度を迎えるにあたり、更に詳細を検討し、魅力ある学校づくりに努めていかなくてはならない。
---------------	---

2 学校教育目標	心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かして社会に貢献する人材を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	(1)「心遣い」の発言や行動ができる生徒を育成する。 (2)学習意欲を高め、確かな学力を育成することで進路実現を目指す。 (3)地域の期待に応える学校づくりを推進する。 (4)「校舎制」の強みを生かし、地域社会に貢献できる有意な人材を育成する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○年間計画に基づき基礎学力の向上を図る。	○国語テスト・英語テスト及び就職ドリルの各クラスの平均点が「15点～18点(20点満点)以上」をめざす。 ○進路マップのGTZでレベルDの生徒を「上のレベル」によるより取り組む。	B	・国語・数学・英語の小テスト・商業キャンパスのクラス平均は17.18、18.26、16.38(すべて20点満点)と当初の数値目標は達成できた。農林キャンパス(国・数・社・英)のクラス平均は15.9点であり、おおむね達成できた。 ・小テストの年間成績優秀者(年間満点)商業キャンパスでは国語29名、英語33名、数学12名であった。農林キャンパスでは年間18点以上が1年13名、2年29名、3年39名の合計81名であり、昨年度の人数を大幅に上回っている。 ・進路マップ(1・2年生)については、農林キャンパスでは、GTZはレベルD3-の生徒が10名減り、レベルD3+の生徒が6名増えた。商業キャンパスは、試験結果が未着であるため評価はできなかったが、事前テキストを各教科の授業等で取り扱い、基礎学力の向上に向けて計画的に指導を行った。	B	・正規の授業以外に学力向上に努めていただいていることは評価できます。	
	○読書活動の推進	○生徒図書委員会を年間「3回」実施する。 ○生徒一人あたりの年間貸出数「4冊」以上をめざす。	B	・朝読書の実施。 ・図書館便りの発行、新刊の案内。 ・読書を推進するための図書委員会による話し合い及び活動。	B	・図書館の改革に取り組まれていることは評価できますが、なお一層の啓発活動をお願いいたします。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講話を受けて「ためになった」と答える生徒が「80%以上」をめざす。 ○特別指導件数「0(ゼロ)」をめざす。	B	・相手のことを思いやり、相手の立場に立って考えた言動ができる生徒を育成する。 ・いじめや暴力を許さない姿勢を育成する。	A	・SNS等の書き込みによる誹謗中傷が減少していることは評価できます。 ・いじめ問題に教育相談分野と連携して、子供の悩みの解決に取り組まれることを望みます。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ問題に対し未然防止、早期発見早期対応、再発防止への組織的な対応ができていると回答した教員が「80%以上」になるよう取り組む。 ○いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図るため、アンケートを毎学期に1回以上行う。	A	・アンケートはオンラインでほぼ毎月実施し、生徒の悩みや問題を早期に把握し対応につなげることができた。特に長期休業明けは質問項目を加えて実施した。 ・スクールカウンセラーとの連携を密にし、生徒の状況把握ができ、職員間の共通理解を図ることができた。また、いじめ問題に対し組織的な対応ができていると回答した教員は95%以上だった。 ・生徒会での宣言までには至らなかったが、選挙公約等で意識の高まりは見られた。今後取り組んでいく。 ・本年度のいじめ認知件数 農林キャンパス13件 商業キャンパス7件であった。	A	・毎月のアンケートの実施は評価できますが、子どもが自分の気持ちを伝えやすい環境を今後も拡充させていただくことを望みます。	
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎講話を受けて「佐賀県に誇りを愛着を感じる・どちらかという感じが」と回答する生徒が「70%以上」をめざす。 ○地域ボランティア活動を年間「2回」実施する。 ○県内(地元へ)就職率の向上と地域を支える人材の育成。	・全学年に「佐賀語」を活用した学習を実施する。1年生は毎週朝読書で取扱い、3年生には「佐賀を誇りに思う事業」を企画する。 ・DVD「ものスコSAGA」を活用し、県内企業に対する理解度を深める。 ・インターシップ等の在り方の検討をし、オンラインで佐賀の企業紹介を積極的に行う。 ・中学生やその保護者への広報・情報発信を推進する。 ・求人票情報の3年学年との共有を速やかに行う。 ・応募前職場見学への参加を促進する。	B	・佐賀を誇りに思う事業の講演を受けて、郷土の価値を再認識することができたと答えた生徒が158人中112人と70%の生徒が答え、ふるさと佐賀に誇りを持つきっかけができた。 ・地域清掃ボランティア活動を実施した。伊万里市はきれいな町づくりをされているため、貢献できるか不安があったが、ごみ袋約20袋分回収することができた。 ・農林キャンパスではDVD視聴、進路ガイダンス、いい職説明会などに参加したことで、佐賀に魅力ある企業が多いことを知り、校外の説明会に積極的に参加する生徒も増えた。 ・農業系実習等の撮影は現在も続けており、今後随時アップ予定。閲覧数も増えており、中学生に対してかなりの募集効果があったと考えられる。	B	・コロナ禍の中、様々な校外活動や講演会等が実施できず、郷土愛の育成のための教育活動が十分にできなかったことは残念です。オンライン教育の環境は充実してきているので、オンラインでの交流や活動も十分活用し、機会を増やしていただきたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒「90%以上」をめざす。	B	・これまで行ってきた保健指導によって感染症予防の意識は高くなっている。校内に設置した消毒薬、消毒石鹸の消費量からもそれが窺える。また、休み時間の換気の動作を呼びかける放送やチームズアプリを利用した健康観察を8月末から導入。自宅において検温等の健康観察ができていた生徒は3割ほどもいる。 ・商業キャンパスでは、お弁当の日を2学期に2回、3学期に2回実施し、結果を食育便り等で報告した。「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合は93%で目標は達成できた。	A	・コロナウイルス感染拡大の防止にしっかり取り組まれてきたことは大いに評価できます。 ・子どもの健康増進のため、今後も食育活動をはじめとした諸活動への取り組みに期待します。	
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○学校管理下での怪我等による生徒一人あたりの災害給付申請件数を「5%以下」とする。 ○生徒の交通事故を「0(ゼロ)」にする。	B	・保健便りによる啓発活動。 ・交通安全教室等を実施し、交通安全マナーを遵守する心を育成する。	A	・交通事故、特に自転車による加害被害の件数が減っていることは幸いなことです。 ・学校管理下での事故、けがの防止に今後も取り組まれることを望みます。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・定時退勤日の設定(週1回)。 ・学校閉庁日の設定(4日間)。 ・部活動休業日の設定日の徹底と運用の遵守。	A	・子どもたちへの教育を十分行っていくためには、まず、先生たちの生活が健全であることが大事です。今後も働き方改革に取り組まれてください。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT利活用	○ICT機器を活用した家庭学習の支援	○家庭学習のための課題配布を各学期3回以上行う。	B	・オンライン学習への準備を整えていたため、行動制限者に対して翌日からオンライン配信の授業がスムーズに実施できた。 ・職員への研修も定期的に行い、スキルアップが図れた。 ・週末の学習道具の持ち帰り、宿題、テスト前の学習計画作成を徹底したことで、事前の備えができ、生徒の学習に向かう姿勢が徐々に改善されている。	A	・限られた範囲の中ではあるが、オンライン教育が実践できていることは評価できます。今後もよりオンライン学習がより発展的に展開できる環境を整えていってください。	
○魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進	【商業キャンパス】 ○商業の考え方を理解させるとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、社会で通用するスキルや知識を身に付けさせる。	○各種検定試験の合格率80%以上をめざす。検定試験の学習の中で論理的かつ実践的な知識を身に付けさせる。 ○外部講師による講演等や、実践的なスキルや知識を身に付けさせる。	B	・検定試験の指導については、授業だけでなく長期休業中や直前対策の特設を設定する。 ・各専門科目の中で、経営者や専門家による授業を実施する。また、このよう内容を生かして関係するコンテストや発表会に積極的に参加するよう促す。	B	・コロナ禍の中、十分な指導や活動ができなかったことは、本当に残念です。 ・オンラインでの講演等の実施が当たり前になってきており、これを是として今後も活用していってください。	
	【農林キャンパス】 ○農林業の実習や商品開発・販売実習の充実 ○地域と連携した活動・交流活動の推進	○学科の専門学習への興味関心度80%以上をめざす。 ○農業文化祭を充実させ生産物販売をとおして、6次産業学習を推進する。	・地域と連携した体験活動や貢献活動・交流活動等の推進。 ・HP更新や学校だより等で情報発信に努め、開かれた学校づくりをめざす。	B	・フードプロジェクト部では、地域活性化・食品ロス問題解決に取り組み、地域を巻き込んだ活動が高く評価され、市報や報道などで多く取り上げられた。 ・生物科学科では「スマート農業」に取り組み最先端の農業教育の推進、森林環境科は「ドローン」を活用した防災教育等、特色ある学習に挑戦できた。 ・毎週火曜日「Aコープ」で販売会を実施することができ、地域からの固定客も増えた。 ・各学科とも工夫を凝らした体験入学や生徒の様子・学習内容等のタイムリーなHP更新を行い、閲覧数も増加した。 ・コロナ禍の中、地域を招いた生産物販売会(農業文化祭)はできなかったが、両キャンパスの保護者に対して販売会ができた。 ・課題研究発表会が、両キャンパスで一緒にはできなかったが、内容の濃い発表会ができた。	A	・全国レベルでのフードプロジェクト部の活躍は本当に頼もしいものです。地域活性化の起爆剤として校内外からの期待も膨らんでいます。今後もさらに活躍されることを期待しています。
○校舎制	○各種委員会開催時における、「オンライン会議」の推進 ○キャンパス毎に実施していた学校行事を1つの学校の行事として開催する。 ○学校行事・生徒会行事等の合同実施	○両キャンパス合同で開催する会議において、積極的に「オンライン」による開催を推進する。 ○両キャンパスの生徒職員が一体感をもって、教育活動や指導支援に取り組む。	A	・両キャンパスのICT支援員が協力し、分掌および全職員が参加できる環境、支援体制を整える。長期休業を利用した会議の実施。 ・行事の精選と合同開催の有無について事前検討する。また、各行事の開催内容の計画を両キャンパス揃えた形で提示できるようにする。	B	・教育課程の違う2つのキャンパスを一つの魅力ある学校にまとめることは本当に大変なことと感じます。 ・地域は伊万里実業高校の発展に期待しており、新しい価値が創造できる魅力ある学校作りにも今後邁進されることを期待しています。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・スクールミッションに基づいた学校全体のマネジメントについて、両キャンパスの特性を長所やメリットととらえて充実した教育活動ができるよう構築していかなければならない。 ・生活指導や部活動指導の変化に伴い、生徒指導、教育相談、いじめ対策、特別支援教育等の領域が機能的、融合的に展開できるよう、職員の研修や知見獲得の機会を増やしていく。 ・地元の産業において、IT企業、情報産業の拡大が予想される。地元の期待に応える人材育成のため、ICT利活用教育をさらに推進し、スマート農業を目指した地域連携活動や、Society5.0や6次産業化に代表される次世代を見据えた教育活動を実践していく。
----------------	--